事務事業調書	No	296	課 名	子ども課	起 案 者	塚本晴美
平成23年度			係 名	子育て支援係	決 裁 者	杉浦雄裕
事 業 種 別	市民サービス		区 分	継続	業務一覧No	
事務事業名	児童センター事業				他 係名	
					他係 業務一覧No	

1 事務事業の位置付けと起案事由(事業の必要性)

総合計画体系	2 健康で安心して暮らせる環境づくり 2 社会福祉 3 子育て支援 4 児童の健全育成 2 児童センター	予算科目(会計)	一般会計	
		予算科目(款・項・目)	15-10-25	
		総合計画以外の計画		
		関連する総合計画の施策	2-2-3-4-2	
性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの（選択的事業）	法定受託事務	無	
根拠法令	有	安城市児童厚生施設の設置及び管理に関する条例		
実施方法	一部委託	委託先	行政関連団体	
実施期間	開 始	昭和58年度	経 過	28年目
	終 了		期 間	
公約・議会答弁	無			
陳情・市民要望	無			

2 事務事業の概要

求める成果	誰(受益者)が	地域の子どもの居場所としての児童センターが整備され利用者が	～になる	安全に気持ちよく利用できるようになる。
事務事業の内容	・来館者とのかかわり（子育ての相談等） ・定期講座の開催（囲碁・将棋教室、卓球教室） ・親子参加行事の開催（乳幼児の親子対象） ・小中学生対象の行事の開催			
事務事業進捗状況	・児童厚生員研修を年５回実施しています。（接遇、実技等） ・月１回のミーティングを開き、現場指導を行なっています。 ・親子で参加の行事や小学生対象の行事を実施し参加者の増加を図っています。 ・卓球やバドミントン等、中高生も楽しめる行事に参加を募集し中高生の居場所となる児童センターでもあるよう、それぞれの年齢に合った内容のものを取り入れていきます。 ・安祥福祉センター内に児童センターを建設するための設計を行いました。			
改善・対策の履歴	なし			
環境配慮の視点	環境目標○－基本的施策○－具体的施策○			

3 事務事業の事業費(千円)、人員推移(人)

	項 目		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度
			目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)
コスト	総事業費 f=a+d+e		56,109	51,862	57,578	55,053	55,800	54,532	57,801
	財 源 計 a		46,169	41,922	46,885	44,360	45,634	44,366	47,259
	財源の内訳	国 庫 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		県 支 出 金	268	246	216	260	216	244	259
		市 債	0	0	0	0	0	0	0
		その他( )	0	0	0	0	0	0	0
		一 般 財 源	45,901	41,676	46,669	44,100	45,418	44,122	47,000
	受 益 者 負 担 金		0	0	0	0	0	0	0
	職 員 人 件 費 d		9,940	9,940	10,693	10,693	10,166	10,166	10,542
	内 訳	従 事 職 員 数	1.32	1.32	1.42	1.42	1.35	1.35	1.40
	人事課予算分人件費 e		0	0	0	0	0	0	0

4 求める成果を得るための活動

				年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
活動	活動①	活動名（活動内容）	行事の開催	見込(単位)	650.00	850.00	980.00	980.00
				実績b(単位)	828.00	972.00	980.00	
		指標名(単位)	開催回数(回)	活動の総事業費f 実績	1,446	1,332	1,264	
				単位コストg=f÷b 実績	1.75	1.37	1.29	
	活動②	活動名（活動内容）	年間利用者数	見込(単位)	300,000.00	320,000.00	320,000.00	336,000.00
				実績b(単位)	313,964.00	290,839.00	327,101.00	
		指標名(単位)	人数(人)	活動の総事業費f 実績	49,601	49,002	48,675	
				単位コストg=f÷b 実績	0.16	0.17	0.15	
	活動③	活動名（活動内容）	研修の実施	見込(単位)	5.00	5.00	5.00	5.00
				実績b(単位)	5.00	5.00	5.00	
		指標名(単位)	実施回数(回)	活動の総事業費f 実績	502	428	516	
				単位コストg=f÷b 実績	100.30	85.50	103.10	

5（1） 成果の目標と実績

		指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
成果	成果1	児童センター設置数(か所)	見込(単位)	7.00	7.00	7.00	7.00
			実績(単位)	7.00	7.00	7.00	
			達成状況	達成	達成	達成	
		目標成果指標値 9.00	目標達成年度	平成26年度			
	成果2	指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
		児童センター利用者数の増加(人)	見込(単位)	1.10	1.10	1.10	1.10
			実績(単位)	1.02	0.93	1.12	
			達成状況	未達成	未達成	達成	
		目標成果指標値 0.00	目標達成年度				

5（2） 成果１、２以外の成果

	市民の意見、利害関係者の声などをプラス・マイナス両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
成果	・実技研修で得たものを遊びの中で生かすことができました。 ・危機管理マニュアルを確認することで、事故発生時の対応と予防について再確認しました。 ・小学生以上対象の行事等を行うことで、児童も意欲的に参加できました。

6 単位コストと成果の分析

	項目	どのような内部の取り組みや外部要因が影響を与えたのか、プラス・マイナスの両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
分析	単位コスト	危機管理マニュアル等、内部の職員で行なえる内容については、内部の職員で研修を行ない講師謝礼の削減を図りました。
	成果1，2	行事内容を親子参加のものや対象年齢別のものを取り入れたことで参加人数が増加しました。よって全体の利用者数も増加しました。

7 所属長の改善案

	コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案、市民にわかりやすく説明する
改善	研修だけでなく、今まで以上に現場へ出向き、現場指導を行なうことで児童厚生員の意識も高まり、利用者への丁寧な対応に心掛けることで、０～１８歳の児童対象の児童センターとしてさらに利用者が増えるよう努めていきます。

8 方向性

方向性	必要性、効率性、有効性を踏まえ、今後どのように事業を進めるか、方向性を選択し、内容を市民に説明します
拡充	ニーズに合った行事内容を工夫し、利用者が気持ちよく利用できるように丁寧な対応を心掛けます。また、対象年齢別の行事を取り入れ、０～１８歳の児童対象の施設である児童センター本来の特色を生かし、中高生の居場所づくりにも取り組んでいきます。